

「税」について考える

税務課 ☎0738-23-5504

FAX0738-24-2890

中学生の「税」についての作文

日高納税貯蓄組合連合会、御坊納税協会、御坊税務署は、御坊税務管内の中学生を対象に「税についての作文」の募集を行いました。結果、1,575編の応募がありました。

審査の結果、御坊市内から石川菜那さんが、「和歌山県納税貯蓄組合総連合会 会長賞」に選ばれました。

和歌山県納税貯蓄組合総連合会 会長賞

日高高等学校附属中学校 3年
いしかわ 石川 菜那さん



作文紹介 題名 税金あつての物種

私は今回税金の作文を書くにあたり、税金について勉強しました。税金の種類は実に多く、身近なものでは消費税です。これは、未成年の私でも払える唯一の税金でもあります。

消費税は平成元年から三%の税率で実施されました。私の父母が十五歳の頃で、ちょうど今の私と同じ年に実施されていました。父母にその時の感想を聞きました。が、おこづかいが減るのが嫌だった、実施前の買いだめで品薄になったのが困った等否定的なものでした。令和六年現在では、八%のもの十%のものがあがり、時代と共に引き上げられています。そもそも消費税は、商品やサービスの販売・提供に対してかかる税金で、年金、医療費、介護、少子化対策などに使用されているものだと思います。平成元年に消費税が実施されて三十六年経っている現在の社会情勢を考えると、税率が上がるのは必要なことであると理解できます。それは現在の少子高齢化が深刻で、私たちの祖父母や父母の人口が多いのに対して、私たち年代の人口がかなり減少している現実です。この影響で、納税する若い人が少なくなり、国の税収も減るので老後を支える年金や介護費用も減少します。

私の六才上の兄は、今年二十歳になり成人の仲間入りです。日本では、成人したら国民年金への加入が義務付けられています。でも、兄の年代の人口も年々減少しているの、祖父母や父母の老後の生活を助ける充分な税収は期待できないと思います。それは、祖父母や父母の心配もあります。が、ひいては未来の私達の老後の不安にもつながることでもあると思います。消費税率の引き上げや、大人になり仕事をして給料から所得税という税金が納付義務になったり、会社を設立したら法人税が発生したりと様々な納税が加わってきます。親族から受け取った場合に発生する贈与税や相続税なども、数えるのとたくさんあります。将来それだけの税金を納めるお金を払えるのか、不安になりました。そこで、逆に納税した私達のお金は何に使われて誰に役立つのか調べてみることにしました。すると、人間が人間らしく生活するために国民全員で支え合えるように、公平に納税するというよく考えられた素晴らしい制度であると理解できました。地震等の自然災害やコロナ等のパンデミックを引き起こす災害は、いづれどこで誰にふりかかるかわかりません。

「命あつての物種」ということわざがある通り、どんな災害にあおうと命こそが何よりも大切であると思っています。報道などで、災害時に被害者に救援物資を届けたり、自衛隊の方々の救助を促したりするにも、私達が納めた税金によって成り立っていると聞きました。何よりも大切な命を維持する事、私は税金こそが国の命であり、国民を生かしてくれる命であると思います。私は国民の一人として、消費税をはじめ納税の義務を責任を持って果たしたいと感じました。

令和6年度「税に関する中学生の標語」優秀作品

日高地方租税教育推進協議会は、税を考える週間（11月11日から17日）の一環として、「税に関する中学生の標語」の募集を行いました。

審査の結果、市内から右の皆さんが優秀作品に選ばれました。

子供でも 社会に貢献 消費税

御坊中学校1年 木戸 優衣さん

見つけよう 税のしくみと その良さを

河南中学校3年 角 琴羽さん

税金は より良い暮らしの サポートだ

名田中学校2年 吉川 沙耶さん